中国Now

松浦良高

第5回 不安に立ち向かう中国人生活者

■東日本大地震と中国

まずは、この度の東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたします。

地震が起きたその日、私は上海でいつも通り働いていました。ちょうどお得意先にて会議があり、そこへ向かう車中でニュースを知りました。その後、ニュースが入るたびに事態の深刻さに胸を痛めましたが、多くの中国人に声をかけられました。「あなたの実家は大丈夫か?」、「被災した親せきとかはいないか?」と、多くの人に心配されました。中国でも2008年に四川大地震があったこともあり、今回の日本の地震には非常に強い関心を持っているようでした。

それを示す一つのデータがあります。株式会社インテージが実施した、中国人の東日本大震災に対する意識調査の結果をみると、東日本大震災への関心度は「とても関心がある」が46・0%と非常に高く、「少し関心がある」の44・8%と合わせると約9割の人が関心を持っていると回答しています。先述のように地震に関しては非常に身近な関心事項になっていると言うことが一つ。さらには、福島の原子力発電所の放射能漏れ事故に対しては、自分の生活とも関係するかもしれないという点において、非常に高い関心を持っています。中国の生活者は、とにかく自分たちの生活に関係するかどうか、この点で関心度が大きく変わってきます。

5月17日現在、今では何事もなかったかのように食塩も普通に売っています…

■日本への旅行者の減少

報道では中国人の日本への旅行客が減っているというニュースもありましたが、実際に私の部下の社員も5月の労働節休暇を利用して友達と北海道へ旅行することを計画していたのですが、最終的には旅行をキャンセルしていました。本人は問題ないのではと思っていたようですが、一緒に行く計画をしていた友達、そして自分の親などの親戚の強い反対にあったとのことです。多くの人の反対を押し切ってまで、今すぐに行く必要がない。少し事態が落ち着いてからまた検討したらいいと多くの人が思っているようです。ただし、いろいろとインタビューしていると、最近では、大学生が友人同士での卒業旅行で日本旅行を計画したり、世帯収入が増加してきたことに加えて、日本旅行の価格も下がってきたこと、さらにはビザの手続きも徐々に簡単になってきたことも手伝って、潜在的に日本旅行のニーズは非常に高まっています。

きていると感じます。きっと状況が好転するにつれて、観光客は戻ってくると思われます。

■塩の買い占め騒動

今回の地震と関連して、日本ではあまり知られていないかもしれませんが、中国では一つの騒動が起きました。それが、塩買い占め騒動です。

ことの発端は、食塩には放射能汚染防止効果があるということと、食塩の元となる海水が核汚染されるという風評から、お店に食塩を買おうとする人が殺到したことでした。多くの店では食塩が売り切れ、食塩の価格もなんと10倍ほどに値上がりし、騒動がさらに激化しました。なんと、食塩が手に入らなかった一部の人は、キムチやしょうゆ、海苔、コンブ、漬物など塩分を含むものを代わりに購入していたというのです。

この食塩騒動は、3月末には落ち着きを見せましたが、ここから見えることが二つあります。

一つは、中国での生活者の間でのコミュニケーションの速さです。本件については、インターネット、とりわけマイクロブログ(ツイッターのような)、SNSと、さらには携帯電話のショートメッセージで広がったといわれています。3月14日ごろから上海エリアで話題になったこの騒動も、これらの情報ツールを通じて3日後辺りには全国レベルにまで展開していました。現在、インターネットと携帯電話の普及によって、生活者の間の情報ルートは非常に多様化しています。そして、情報の伝播するスピードも5年前とは違って大幅に速くなっているように感じます。ちなみに、本件の食塩騒動ですが、月末には買いすぎた塩を返却したい人たちが店頭に再度殺到したという、返却騒動までもが起きたということです。

もう一つのインプリケーションは、中国人の用心深さです。前にも書いたことがあると思いますが、中国人は様々なことに対して疑心暗鬼です。信じられるのは何よりも自分や周りの友人の口コミです。今回の事件に関して言えば、多くの人たちが、「何かしておいた方が、何もしないよりも良い」と考えて行動したのが背景にあります。要するに、別に塩を多く買っておいたって特に問題はない。それよりも、買っておかなかったことにより後悔をしたくない、と考えたようです。この裏には、中国の生活者が持っている不安感や不信感、こういったことが非常に強く感じられる事件でした。

■咆哮体

最後に、中国の最近の流行で上記のような不安感や不信感を強く感じる事象があります。それが、「咆哮体」と呼ばれるネット上での流行です。○○体、というのは、○○な文体という意味なのですが、ここでは、咆哮する(激しい勢いでほえる)文体、という意味になります。たとえば、よく転載されているフランス語を学び始めた人の咆哮ですが、このような感じです。

> 俺は二年前にフランス語を勉強し始めた!!!
> 二度と戻ることのできないバカな道に入りこんでしまった!!!
> 俺にフランス語が世界で最も美しい言語と言ったのは誰だ!!!!
> どのフランス語を聞いたんだ!!!フランス語は吐き捨てるような発音だろうが!!!
> フランス人の数字の読み方が変じゃないか!!
> 「76」は「七十六」とは読めない!!!「六十プラス十六」と呼ばれる!!!
> ・・・(続く)

このような調子で、咆哮が続きます。微博と呼ばれるマイクロブログやら、SNSやらで頻繁に見られるのですが、ようは、怒ってるんです。そして、怒りをユーモアにしているのですが、こういう咆哮体を見ていると、そんな溜まったマグマを感じるわけです。テーマもいろいろで、職業別に咆哮体がアップされています。みんなの不安や不信から来る怒りをユーモアに変える中国人生活者の一面がこの流行でも見えるかと思います。不安や不信が多い社会も疲れますが、それにしても、日本と比べるとまだまだ熱いエネルギーを感じますね。

松浦良高(まつうら・よしたか)
博報堂研究開発局上席研究員、上海博報堂市場本部本部長。
1975年生まれ。
97年学習院大卒、99年ジョージ・ワシントン大大学院修士課程修了。2000年博報堂入社、ストラテジックプランニング局、生活総合研究所を経て現職。06年より上海在住。中国における生活者とメディア研究を行っている。主な著書に『亞州未来図2010』(共著)、『新・中国若者マーケット』など。